

感染性胃腸炎に注意しましょう！

感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌または寄生虫など多種多様な病原体が原因となっているため年間を通じ発生があります。一般的に、冬季の感染性胃腸炎の原因はウイルス性のものが多くなり、冬季の前半にはノロウイルスによる胃腸炎が、後半から春にかけてはロタウイルスによる胃腸炎が多くなります。子どもから老人まで全ての年齢層で発症しますが、幼児や学童が中心となっています。

潜伏期間

原因となる病原体の種類と量、病気に対する抵抗力により異なりますが、10時間から2日間くらいが多いようです。

症状

原因となる病原体にもよりますが下痢、嘔吐(おうと)、腹痛、発熱などです。原因によって、熱や下痢の始まる順番や強さが違ったり、便に血が混じったり、白くなったりします。1～2日間症状が続いた後、回復します。後遺症はありません。感染しても症状がでない場合もあります。

感染予防のポイント

二次感染を予防するには…

- 調理の前や食事前、トイレのあとは石鹸を良くアワたてて、手指から手首まで十分に洗いましょう。
 - 便や「おうと物」を処理する時は、乾燥させず、すぐにふき取り、消毒しましょう。消毒液は市販の「塩素系漂白剤」(塩素濃度約5%)でかまいません。消毒用アルコールは効果は期待できません。
 - おうとした場合は部屋を換気し、マスクをして使いすて手袋をはめ、約10倍(塩素濃度約0.5%(5000ppm))に薄めた塩素系漂白剤を染み込ませた布などで「おうと物」を外側から内側に向けて静かにふき取りましょう。
 - おうと物が付着していた床などは、周囲を含めて約250倍(塩素濃度約0.02%(200ppm))に薄めた塩素系漂白剤を染み込ませた布などでふきましょ。その後、水ぶきをしましょう。(1ppmは10,000分の1%)
- (参考) 消毒液の作り方 市販の塩素系漂白剤のキャップは20～25mlです。
10倍液を作るには10のペットボトル半分の水にキャップ約2杯です。
250倍液を作るには10のペットボトル3本の水にキャップ半分位です。
- 使用した布などはすぐにビニール袋に二重に入れ、処分しましょう。



感染性胃腸炎にかかったら

お子さんが下痢、おうとが続き、ぐったりして唇が乾燥、尿が濃くなる、機嫌が悪くなるなどの症状があらわれたら脱水症です。大至急、病院で受診しましょう。おうとしていて3～4時間は何を与えてもはいてしまいます。はきけがおさまってから、安静にして、麦茶や果汁などを少しずつ与えましょう。



(画像の一部は国立感染症情報センターと神奈川県感染症情報センターのサイトよりお借りしました。)